

～「一步を踏み出す勇氣」～

爽やかな秋風が心地よい季節となりました。9月は文化祭が開催され、皆さんの努力とクラスの団結の結晶である発表は、人々を魅了する素晴らしいものでした。また、10月は体育大会開催前の活動が本格化する時期です。「実りの秋」という言葉があるように、これまでの努力が形になる素晴らしい季節ですが、同時に「失敗したらどうしよう」「うまくできなかつたら恥ずかしい」と、不安を感じている人もいるかもしれません。

そんな皆さんに、ノーベル賞を二度受賞した科学者、マリー・キュリーのこんな言葉を贈ります。

「人生において恐れるべきものは何もない。

理解すべきものがあるだけだ。」

キュリー夫人は、困難な研究や未知の壁に直面したとき、それを「怖いもの」として避けるのではなく、「どういう仕組みなのか」「どうすれば乗り越えられるのか」と理解しようと努めました。

私たちが失敗を恐れてしまうのは、未知の挑戦に対して「自分にはできないかもしれない」という不安が先立ってしまうからです。しかし、行事や日々の学習で大切なのは、結果だけではありません。「なぜうまくいかなかったのか」「次はどう工夫すればいいのか」と、物事を前向きに捉えて理解し、挑戦することそのものが、皆さんの大きな成長につながります。

失敗を恐れず、まずはやってみる。そして、壁にぶつかったら面白がって理解しようとする。そんな前向きな姿勢で、様々な活動に挑んでいきましょう。皆さんの挑戦を、先生たちはいつでも応援しています。